

# 通商白書2011

## ～震災を越え、グローバルな経済的 ネットワークの再生強化に向けて～ コメント

伊藤 萬里

経済産業研究所・専修大学

2011年7月22日BBLセミナー

# 報告の概要(1)

## 1. 貿易構造の変化

⇒過去20年の貿易相手・貿易財の構成変化を可視化

•1990-2000-2008年:

NAFTA・EU・日本⇒中国・メルコスの台頭

- 世界同時不況後の変化:対中貿易が回復を牽引
- 中国→加工貿易へ ASEAN→バランス型
- 中国—EU(特にドイツ)or ASEAN間の貿易拡大
- 中国への最終財輸出→資本財>消費財

# 報告の概要(2)

## 2. 日本の経済・産業構造の変化

⇒精緻な産業連関分析によって変化を可視化

### •中間財(部品・材料)貿易の拡大

需要↑⇒中間財の国内生産↑⇒中間財輸出↑

需要↑⇒中間財の海外調達↑⇒中間財輸入↑

後者は生産誘発・雇用の流出、消費・投資・税収減少による負の影響アリ

•波及効果(直接+間接効果)がどのくらい国内に残るか=国内残存率⇒大きく減少

•波及効果の減少を補う輸出増加ができなかった

# 報告の概要(3)

## 3. 震災後のサプライチェーン(SC)への影響

- 輸送用機械の生産・輸出落ち込みが顕著
- 被災地域の貿易シェア低い(輸出2%・輸入4%)
- 被災地域からの直接的な輸出の影響は小さい
- 自動車: 関東以北⇒北米; 西日本⇒中国・アジア
- 電子: 関東周辺⇒北米; その他⇒中国・アジア
- 基幹部品欠落の影響⇒マイコンについて分析  
⇒高付加価値品が北米向けに関東から輸出
- 自動車部品: 東北から関東を経由した間接的な輸出が相対的に大きい
- 産業特性が影響(在庫管理・SCM)

# コメント(1) 貿易構造の変化について

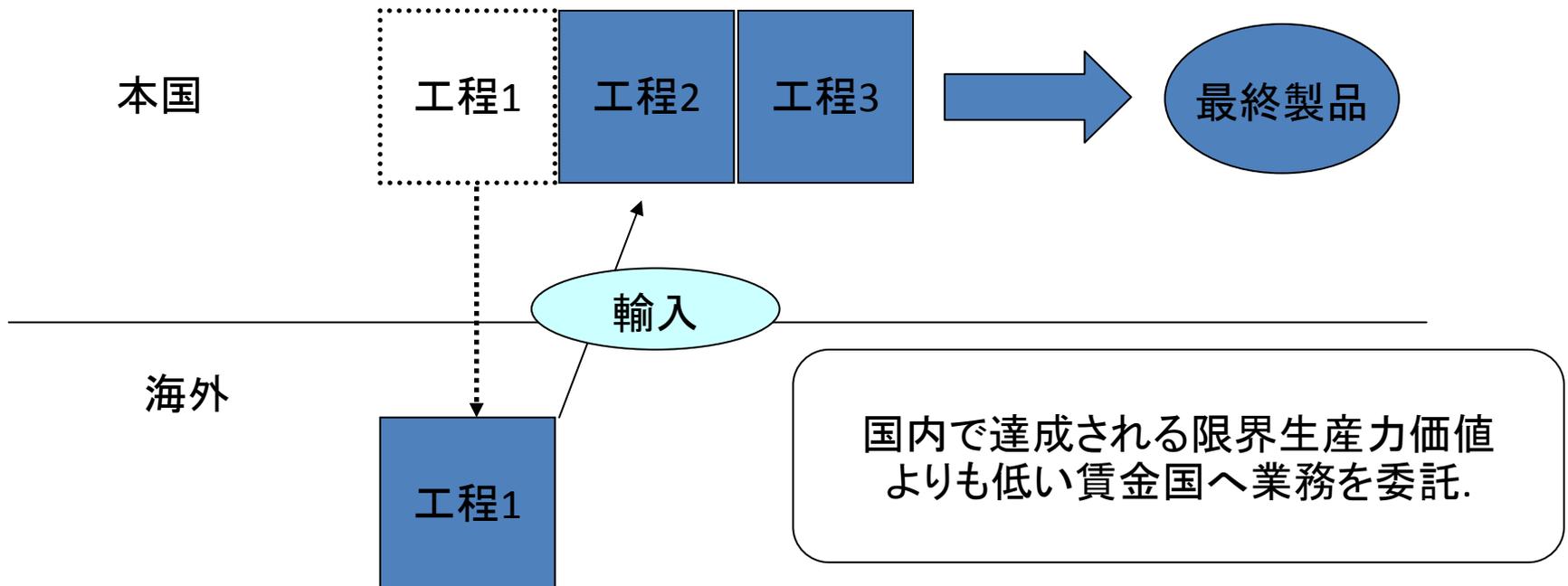
- 2008年危機前後の変化: 欧米集中→多極化  
伊藤(2011,『経済分析』184号)危機前後の日本の輸出について品目・仕向地別分析⇒危機後のアジア各国向け輸出が回復を牽引
- ASEAN域内の補完的性質: 加工貿易型(タイ・ベトナムなど)、資源・加工(インドネシアなど)
- 国際化モードの多様化している  
○輸出: ○現地生産・販売: ○技術ライセンス・委託生産(OEM)  
資本財(知識集約的)→輸出  
消費財→現地生産・販売・ライセンスにシフト

# コメント(2) 経済・産業構造の変化

- 「合成の誤謬」と「空洞化」の関連
  - ⇒ マクロ的な視点で定量的に評価した点興味深い、震災後の重要な課題になりつつある。
- 輸入VS 輸出で考えてよいか？
  - ⇒ 輸入(中間財調達)による生産性の向上も
  - ⇒ 輸出への参入がうまくいっていない(中小企業の国際化、FTA/EPAの遅れ)
  - ⇒ 構造調整(低生産性部門→高生産性部門、規制緩和・新規産業創出)がうまくいっていない

# 垂直的 direct 投資・海外生産委託(調達)による 国際分業の国内生産性へのプラス効果

- 生産費用削減効果
  - 他の工程への特化による効率性上昇
- ⇒ より熟練・高度な生産工程(R&Dなど)へ資源を集中



# コメント(3) 震災後のSCへの影響

- グローバルサプライチェーンの可視化に貢献  
⇒SCは実際にはピラミッド型でなく樽型・ダイヤモンド型  
⇒2次サプライヤーの製品が高付加価値化(自動車が電子化した)  
部品の特注・特殊化⇒部品の汎用化or垂直統合?  
部品特殊化→関係特殊な投資→hold-up問題→垂直統合
- 在庫管理(=just-in-time方式)と集積が競争力の源泉でもあった
- 海外移転・委託増加も一つの手段。ただし震災リスクと引き換えに契約・技術流出などのリスクも発生する
- 地域間IO表データの制約:北関東地域の被災識別が困難  
L社:マイコン(茨城県ひたちなか市)世界シェア4割  
M社:超薄銅箔(埼玉県上尾市)世界シェア9割  
I社:圧延銅箔(茨城県日立市)世界シェア75%